



吉川小だより 10月号

京都府亀岡市立吉川小学校 令和8年9月30日発行
〒621-0014 亀岡市吉川町穴川平田17番地 TEL 0771-22-1210
E-Mail el-yoshikawa@edu.city.kameoka.kyoto.jp



A I とのつきあい方

「こんなこともできるのか・・・」

あまりの出来映えに、思わず声が出ました。

私の友人が、会議で使う資料を作るのにA I（人工知能）を使うというので、その様子を見せてもらった時のことです。友人は、作りたい資料について細かく指示を入力しました。しばらくすると、私の予想をはるかに上回る資料が提示されました。画像も文章も友人の指示どおりの内容が丁寧に記されていました。

「あまりA Iに詳しくないようやけど、これぐらい普通やで」と友人はつぶやきます。確かに、私はA Iをほとんど使ったことがありません。意味のわからない言葉の検索で使うのが関の山です。感心している私に、友人はもうひとつつぶやきました。

「仕事は確かに楽になった。でも、なにか違和感があるんや・・・」

私はともかく、A Iを上手に使いこなしている方は、たくさんいらっしゃいます。A Iは今もどんどん進化しているそうなので、これからは私たちの生活には欠かせないものとなっていくことでしょう。

一方、子どもたちはというと、大人に負けないくらい詳しい子もいるようです。子どもたちは新しいものを吸収するのが早いですから、すぐに慣れて様々なことに活用してスキルを高めているのでしょう。

A Iはたいへん便利なものです。私たちの生活を、さらに豊かなものにしてくれる可能性を秘めています。

ただ、子どものA Iの使い方については、私は慎重に考えるべきだと思います。子どもが成長する時期において、獲得した言葉を使って自分で文章を書くことや、集めた情報をもとに自ら判断することなどは、たいへん重要なことであると考えます。子どもがA Iを多用することで、その貴重な機会が失われることが心配なのです。

また、あれこれ悩み苦勞してやり遂げた時にしか味わえない達成感や、自力で苦難を乗り越えたという自信を感じる経験は確実に減ります。友人が言っていた「違和感」も、そのようなものかもしれません。

先日、アメリカのA I開発研究者が「今後10年以内に、A Iが人類を滅亡させる可能性が、10%以上あると考えられる」と警告した、というニュースを見ました。まさかと思いつつも、未来を担う子どもたちに、A Iを適切に活用し、きちんと考え責任を持って判断する力を身に付けさせることが重要であると再認識しました。

なお、この文章はA Iを活用せず、自力で考えています。

校長 谷口 浩之